



ビートルズの歌は、今やスタンダード・ナンバーとなつて多くのジャズ・シンガーが取り上げているが、アルバムまるまるビートルズを歌っているものは、案外少ない。ヘレン・メリルが日本に住んでいた1970年に「ビートルズを歌う」を録音しているが、すぐに思い浮かぶのは、これと本アルバムくらいだろうか。面白いのは、ヘレン・メリルとサラ・ヴォーンが選んだ曲としては、「ヒア・ゼア・アンド・エヴリホエア」を除いてダブリがないことだ。それだけジャズ・シンガーが興味を持つビートルズの楽曲が多いということだろう。70年代のこの頃は、ジャズ・シンガーにとってはロックに押されて難しい時代だった。流星のサラ・ヴォーンも1974年にメインストリームに吹き込んだ「センド・イン・ザ・クラウンズ」以降、ポーランドのジャズ・ジャンボリーでのライブや、空軍の軍楽隊との放送録音などはあるが正規の録音は1977年のアトランティックの本アルバムまでなかった。どういう訳かアトランティックとはこの一枚だけで、その後はロンドンでのバイ・レーベルのライブ、そしてババロレコードでの作品とレーベルは変わっていく。ジャズ・シンガーには、厳しい時代が続いていたということだろう。

本アルバムのアレンジは、マーティ・ペイチとその息子のデヴィッド・ペイチが担当して、彼らはキーボードも担当している。マーティ・ペイチは、

メル・トーマの作品などで有名なあのペイチだ。デヴィッドは、ロック・バンドのTOTOで活躍するミュージシャンだ。そのため、TOTOのメンバーも何人が参加している。その他、ギターのリートナー、ハーモニカのトゥーツ・シールマンス、ギターとヴォーカルでブラジルのマルコス・ヴァーリも参加している豪華なメンバーだ。時代を反映してフュージョン系のサウンドをバックにロック・ビートで歌っている曲が多い。なお、この時の録音で「ハニー・バイ64」、「オー・ダーリン」と「ゴールデン・スランバー」が未発表のままになっている。

「ゲット・バック」は、1970年の映画「レット・イット・ビー」のラストに使われた1969年の大ヒット。サラはビートに乗って「古巣にようこそお帰り」を繰り返して快調に歌う。「アンド・アイ・ラヴ・ハー」は、1964年の映画「ビートルズがやって来るヤァ!ヤァ!ヤァ!」で歌われた1964年のヒット曲。後半、バック・グラウンドのコーラスも入ってロマンチックな歌を聞かせる。「エリナー・リグビー」は、1966年にヒット。その後、レイ・チャールズ、アレサ・フランクリンなど多くの歌手も歌っている。「教会で孤独の中に死んだエリナー・リグビー、神父のマッケンジーも孤独だ。こういう孤独な人達は、何処からくるのだろうか」といった歌。ビートに乗ってコーラスと共に質問するようなムードで歌っている。「フール・オン・ザ・ヒル」は、1967年

のTV映画「マジカル・ミステリー・ツアー」で歌われたナンバー。翌年、セルジオ・メンデス & ブラジル '66のレコードがヒットした。「丘の上に毎日立って、瞑想しているような、木偶の坊と言われる男は何者だろうか」という、はてなムードが歌の終わった後も長く続く演奏で感じられる。「ユー・ネヴァー・ギヴ・ミー・ユア・マネー」は1969年のアルバム「アビイ・ロード」の中で歌われているナンバー。「学校も退学になった、バイトもくなくなった、金がない、やることもない」という若者の嘆きや悲しみを感じさせる歌で聞かせる。「カム・トゥゲザー」は、1969年に全米で大ヒットしたナンバー。サラは、バック・コーラスと一緒に合唱している。

「アイ・ウオント・ユー(シーズ・ソー・ヘヴィー)」は、「アビイ・ロード」の中の歌で、ジョン・レノンがオム・ヨコのために書いたと言われる激しい恋の歌。サラは、リズムに乗って快調に呼びかける。「ブラック・バード」は、1968年のアルバム「ザ・ビートルズ」の中で発表になった。その後、多くのジャズ・シンガーが歌っている。明かりを目指して飛び立とうとしている傷ついたブラック・バードは、黒人女性を指しているとも言われる。努力している

息使いのような音から始まるアレンジが冴えている。「サムシング」も「アビイ・ロード」の中で紹介されたジョージ・ハリソン作の歌。彼がジョー・コッカーに贈った歌と言われる。サラは、ブラジルのマルコス・ヴァーリのギターをバックにボサ・ノヴァ・リズムで歌う。中間部では、彼の口笛とボルトガル語の歌も入る。「ヒア・ゼア・アンド・エヴリホエア」は、1966年のアルバム「リボルバー」の中で発表された美しい愛の歌。サラは超スロー・テンポでワン・コーラスで歌い切る。「ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード」は、1970年のアルバム「レット・イット・ビー」の中のナンバー。同年にヒットしている。どうしても達成できないもの、たどり着かない道を取ったと言われる悲しい歌。ピアノを主体にしたバックでトゥーツ・シールマンスのハーモニカも入り、サラはしっかりと歌う。「イェスタデイ」は、1965年のアルバム「ヘルプ!」の中で発表になり大ヒットした。サラは、ストリングスをバックに綺麗なバラードで聞かせる。「ヘイ・ジュード」は、1968年のシングル盤での大ヒット・ナンバー。ここでは短いバンド演奏で聞かせる。

高田 敬三

●(取り扱以上のご注意) ●ディスクは両面共に、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。●ディスクが汚れたときは、メガネふきのよう  
な柔らかい布で両面から外周に沿って放射状に軽くふき取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。●ディスクは両面共に、鉛筆、  
ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。●ひび割れや変形、又は録音用等で補修したディスクは、危険で  
すから絶対に使用しないで下さい。●(保管上のご注意) ●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。●ディスクは使用後、元  
のケースに入れて保管して下さい。●プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。

# SARAH VAUGHAN

## SONGS OF THE BEATLES

### サラ・ヴォーン『ソングス・オブ・ザ・ビートルズ』

- |  |   |
|--|---|
| 1 ゲット・バック<br>GET BACK  | 9 ブラックバード<br>BLACKBIRD                                    |
| 2 アンド・アイ・ラヴ・ハー<br>AND I LOVE HER                             | 9 サムシング<br>SOMETHING                                      |
| 3 エリナー・リグビー<br>ELEANOR RIGBY                                 | 10 ヒア・ゼア・アンド・エヴリホエア<br>HERE THERE AND EVERYWHERE          |
| 4 フール・オン・ザ・ヒル<br>FOOL ON THE HILL                            | 11 ザ・ロング・アンド・<br>ワインディング・ロード<br>THE LONG AND WINDING ROAD |
| 5 ユー・ネヴァー・ギヴ・ミー・ユア・マネー<br>YOU NEVER GIVE ME YOUR MONEY       | 12 イエスタデイ<br>YESTERDAY                                    |
| 6 カム・トゥゲザー<br>COME TOGETHER                                  | 13 ヘイ・ジュード<br>HEY JUDE                                    |
| 7 アイ・ウォント・ユー<br>(シーズ・ソー・ヘヴィー)<br>I WANT YOU (SHE'S SO HEAVY) |   |

サラ・ヴォーン(vo)、リールトナー、ティーン・パークス、ルーイー・シエルトン(g)、マーティ・ペイチ、デヴィッド・ベイチ(key, rhythm arr, horn arr, strings arr)、マイク・ラング(key)、デヴィッド・ハンケイト(b)、ジェフ・ボーカロ(ds, perc)、ボビー・ホール、ジョー・ボーカロ、ステューヴ・フォアマン(perc)、ステューヴ・ボーカロ(synth)、トケッツ・シールマン(s, hca)、ジョン・スミス(ts<sup>6</sup>7)、ボブ・マグスツソン(string-b<sup>5</sup>)、ビル・テッドフォード、ベリー・モガン、ジム・ギルストラップ(back vo)、ストリングス、シド・シャープ(concert master)

【録音】1977年 カリフォルニア州ユニバーサル・シティ(推定)

77年頃に制作されたものの、すぐにはリリースされることのなかったサラ・ヴォーンの貴重な“ビートルズ作品集”。レノン〜マッカートニーの手になるおなじみのヒット曲が多くとりあげられていて、サラは自在にメロディーを崩しながら、彼女なりのジャジーな味付けで聴かせている。その節回しの上手さとともに、サラならではの風格ある表現に魅了されるアルバム。マーティ・ペイチのバック・アレンジも、まさにツボを得たものである。

- 1 ゲット・バック
- 2 アンド・アイ・ラヴ・ハー
- 3 エリナー・リグビー
- 4 フール・オン・ザ・ヒル
- 5 ユー・ネヴァー・ギヴ・ミー・ユア・マネー
- 6 カム・トゥゲザー
- 7 アイ・ウォント・ユー (シーズ・ソー・ヘヴィー)
- 8 ブラックバード
- 9 サムシング
- 10 ヒア・セア・アンド・エヴリホエア
- 11 ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード
- 12 イエスタデイ
- 13 ヘイ・ジュード

サラ・ヴォーン(v), リー・リトナー、ティーン・パークス、ルーイー・シエルトン(g), マーティ・ペイチ、デヴィッド・ペイチ(key), rhythm arr, horn arr, strings arr), マイク・ラング(key), デヴィッド・ハンタート(D), シェーン・パーカロ(ds, perc), フレド・ハール、ジーン・バーカロ、ステイプ・フォアマン(perc), スティーヴ・ホーカロ(synth), トーク・ウジール・マクス(trap), ジョン・スミス(ts), ホプ・マグナソン(string-b), ビリテッド・フォード、ペリー・モーガン、ジム・ギルストラップ(back vo), ストリンクス、シド・シャープ(concert master)

録音 1977年 カリフォルニア州  
ユニバーサルシティ(推定)  
※歌詞は掲載しておりません。

JAZZ BEST コレクション特設サイト  
<http://wmg.jp/jazz1000/>

※一部お聴きしい箇所がありますが、すべてオリジナル・マスターテープに起因するものです。また、ジャケットには、オリジナルLPを再現した箇所があり、本CDの内容と異なることがあります。ご了承下さい。

DISC このCDを、著作権で認められている権利者の許諾を得ずに、複製、貸付、譲渡、転売、音質複製に使用すること、個人的な範囲を超えて複製を複製すること、また、ネットワーク等を通じてこのCDに収録された音を送信できる状態にすることは、著作権法上禁止されています。

★ 13.925 (税込) ① MANUFACTURED IN THE EU. ② WAA  
ワーナーミュージック・ジャパン (W) STEREO



JAZZ  
BEST COLLECTION  
1000

第9弾

サラ・ヴォーン  
ソングス・オブ・ザ・ビートルズ

JAZZ  
BEST COLLECTION  
1000

第9弾

サラ・ヴォーン  
ソングス・オブ・ザ・ビートルズ

マーティ・ペイチとデヴィッド・ペイチ親子のプロデュースで、完成度の高いビートルズのカヴァー集が完成。



日本初CD化

24bit デジタル・リマスタリング

定価  
¥1,000

8122-79598-7  
(ジャズ/ヴォーカル)

STEREO



8122-79598-7

完全限定盤  
定価 ¥1,000

税抜価格 ¥952

©'14.3.24まで

8122-79598-7

SARAH VAUGHAN / SONGS OF THE BEATLES

ATLANTIC



©1981 WEA International Inc., a Warner Music Group Company.  
All rights reserved. Unauthorized copying, hiring, lending, public performance and broadcasting of this recording prohibited.  
Manufactured in the EU.

SARAH VAUGHAN  
SONGS OF THE BEATLES

SIDE ONE

GET BACK  
AND I LOVE HER  
ELEANOR RIGBY  
FOOL ON THE HILL  
YOU NEVER GIVE ME YOUR MONEY  
COME TOGETHER

SIDE TWO

I WANT YOU (SHE'S SO HEAVY)  
BLACKBIRD  
SOMETHING  
HERE THERE AND EVERYWHERE  
THE LONG AND WINDING ROAD  
YESTERDAY  
HEY JUDE

All songs written by John Lennon and Paul McCartney except "Something" written by George Harrison

All songs published by Maelco Music, Inc. SMI except "Fool On The Hill" published  
by Comet Music Corporation, ASCAP and "Something" published by Harrison/Ltd. Ltd.  
Zero Productions, Inc. BMI

Guitars: Lee Rosenour, Dean Parks, Louise Shelton  
Keyboards: David Paich, Marty Paich, Mike Lang  
Bass: David Hungate  
Drums: Jeff Porcaro  
Percussion: Bobbye Hall, Joe Porcaro, Jeff Porcaro, Steve Forman  
Synthesizer: Steve Porcaro  
Harmonica: Jean "Toots" Thielemans  
Tenor sax: John Smith on "Come Together" & "I Want You (She's So Heavy)"  
String bass: Bob Magnusson on "You Never Give Me Your Money"  
Background singers: Billy Theodor (Lead), Perry Morgan, Jim Gilstrap  
Strings: Sid Sharp (Concert Master)  
Rhythm, horn and string arrangements: Marty & David Paich

Recorded at Davlen Studio  
(Thank you Leonard, Laura, Paul, Larry David, Bob)  
Engineer: Tom Knox  
Mixed at Hollywood Sound  
Production Assistant: Lorie Paich  
Cover illustration: Bob Zering  
Art director: Bob Defrin  
PRODUCED BY MARTY & DAVID PAICH

Special thanks to:  
Marcos Valle for his performance on "Something"  
Marshall Faber (Guru)

8122-79598-7

SARAH VAUGHAN / SONGS OF THE BEATLES

ATLANTIC

